ハンドボール 「第30号目次」

昭和41年1月号

〔表紙写真〕

第12回全日本選抜ハンドボール選手権大会の男子決勝リーグ．芝浦工大対 全立大戦 の 試 合（12月19日東京体育館で）

私の言葉

元旦の計

日本ハンドボール協会理事長　高嶋　冽

全国ハンドボール愛好者のみなさん。新年おめでとうございます。心からごあいさつを申し上げます。昔から「1年の計は元旦にあり」と申します。みなさんもそれぞれことしの計画や、抱負を正月にお決めになっていることと思います。私も例外でなく、私なりに元旦の計をたてました。全く個人的な「元旦の計」ですが、ご参考までご披露します。

その前に昭和40年をふり返ってみたいと思う。昨年は私どもにとってはたいへん意義深い画期的な年でした。と同時にたいへん悲しい年でもあった。

（1） 4月に他の競技団体にさきがけて日中交流を実現し中国に男子選手団を派遣した。そして他の競技団体や体協代表者の交流の先べんをつけた。

（2） 8月に沖縄のハンドボール協会が誕生し、男子高校チームは初めて全国高校選手権大会に参加し、3回戦まで進んだ。

（3） 2月には全国の実業団チームを統合する全日本実業団ハンドボール連盟が誕生し、協会にまた大きな柱ができた。

（4） 10月に女子の日本代表チームが世界選手権大会に参加、また国際対抗試合のたヨーロッパ遠征を行ない、ポーランド、西ドイツ、フランスなどに完勝した。

（5） 11月には20年の長きにわたってわれわれを愛し、励ましてくれました式場会長が死去された。

（6） 12月初旬には例年の全日本総合室内選手権大会の大改革を行ない、8チームによるリーグ戦方式を採用し、成功を収めた。

（7） 12月下旬には高校男女2チーム（全日本選抜）が沖縄に遠征し、親善、強化、普及に大きな役割りを果たした。

（8） IOC総会で、1972年からハンドボールがオリンピックで実施されることになった。

このように成果を基礎として、ことしは底辺の拡充、強化に全力を尽くしたいと思う。普及と強化ということは表裏一体のものであり、かつ競技団体が背負う宿命である。そこで具体的な目標として、

底辺の拡充については

（イ） 中学校体育指導要領への復活のための努力

（ロ） 高等学校チームの2割増

（ハ） 教員チームの育成――教育系大学チームの育成

（ニ） 実業団チームの強化

強化としては

（イ） ナショナルチームの編成と強化

（ロ） 強化コーチの強化

（ハ） 国際試合

などが考えられる。

いずれにしても、ことしは特に決意を新たにして精進したいと思う。みなさんの暖かいご支援を特にお願いします。

芝浦工大、堂々と初優勝

女子は田村紡が2連勝

意外だった大崎電気（男女）

第12回全日本選抜ハンドボール選手権大会は昨年12月14日から19日まで東京体育館で行なわれた。昨年までは全日本総合室内選手権大会と呼んでいたが、この大会から男女8チームを選抜した。試合は男女とも2組に分けて準決勝リーグを行ない、各組の上位2チームで決勝リーグという新しい方式を採用した。この結果、男子は芝浦工大が全立大、大崎電気、大阪イーグルスを破り、3戦3勝して初優勝した。芝浦工大は全日本学生選手権大会、全日本学生王座決定戦に次いで3大タイトルを獲得した。女子は田村紡が大洋デパート、愛知紡を破り、大崎電気と引き分けて2勝1引き分けで2年連続優勝を飾った。なお大崎電気の男子は3位、女子はヨーロッパ遠征の疲れが出て3戦3敗（4位）した。

40年12月14日～19日・東京体育館

全立大、まず1勝

男子決勝リーグ

▽17日

全立大 16（6—7、10—5）12 大阪イーグルス

「レフェリー」佐野和夫（教大出）「ゴールジャッジ」箱崎敬吉（教大出）、岡前義春（日体大出）

全立大		得		大阪	得
GK	尾形	0	GK	島光	0
	北田	0		崎島	0
FP	江名	3	FP	月望	1
	松本	0		尾松	0
	伊東	0		岡丸	0
	林	0		東	1
	木野	4		井藤	0
	北村	3		上井	5
	山口	0		木青	3
	東	3		岡北	1
	野田	3		藤加	1
		16	7MT	(1)	12 (1)

▽反則退場 松尾

〔評〕全立大は防御戦法のイーグルスに手こずった。そのうえエース木野がマークされ、得意の大きなパスからのゆさぶりもききめがなかった。その間にイーグルスは虚をつく攻撃に出てポイントをあげるなど、前半はイーグルスのペースだった。

全立大は後半20分すぎ、疲れたの見えたイーグルスに早い動きで反撃。これまで木野を徹底的にマークしていた松尾が反則で退場するや、木野、野田がシュートを決めてやっと逆転、そのまま逃げ切った。

イーグルスは高校の先生（日体大出）で編成されたチーム。チームワークがよく、後半25分まで主導権をにぎりながら、あとひと息のスタミナ不足で惜しくも敗れた。（サンケイ新聞から）

〔写真〕全立大—大阪イーグルス、前半2分木野（左側）のシュート決まる（朝日新聞提供）←

決勝リーグ成績表

男子	芝浦	立大	大崎	大阪	勝	負	分
芝浦工大	×	○	○	○	3	0	0
全立大	●	×	○	○	2	1	0
大崎電気	●	●	×	○	1	2	0
大阪イーグルス	●	●	●	×	0	3	0

女子	田村	大洋	愛知	大崎	勝	負	分
田村紡	×	○	○	△	2	0	1
大洋	●	×	○	○	2	1	0
愛知紡	●	●	×	○	1	2	0
大崎電気	△	●	●	×	0	2	1

芝浦工大、大崎を破る

芝浦工大 16（6−6 / 10−5）11 大崎電気

「レフェリー」岡村昭二（教大出）

「ゴールジャッジ」佐野和夫（教大出）、安藤純光（法大出）

芝浦	得		大崎	得
渡辺	0	GK	福本	0
山村	0	GK	下里	0
近藤	5	FP	田口	0
青山	3	FP	小谷内	1
近森	3	FP	北村	0
吉金	2	FP	金田	0
関根	0	FP	宮原藤	1
山田	3	FP	竹野	3
岩崎	0	FP	井上	5
竹内	0	FP	餅原	1
小林	0	FP	宮原宏	0
	16	（0）7MT（1）		11

▽反則退場　井上

〔評〕芝浦工大は大崎に走り勝った。互いに速攻が身上のチームで息もつかせぬ攻防は見ごたえがあった。芝浦工大は2分大崎の井上に先取点を許したが、近森、吉金が連続得点して試合の主導権を握った。大崎は竹野に打たせたが、芝浦工大のディフェンスが堅く、またGK渡辺の好守にはばまれた。芝浦工大の速攻は後半も衰えず、近森、青山がマークされると、近藤、山田が好走して得点をあげ、大崎の追撃をかわし全日本総合選手権の雪辱をとげた（東京新聞から）

近森のシュート決まる。芝浦工大—大崎電気→

大崎、早くも2敗

▽18日

全立大 22（12―8 / 10―4）12 **大崎電気**

「レフェリー」安藤純光（法大出）「ゴールジャッジ」岡村昭二（教大出）佐藤敦（教大出）

得	大崎			全立大	得
0	福本	GK	GK	尾形	0
0	下里	GK	GK	北田	0
1	田口	FP	FP	江名	4
1	北村	FP	FP	安達	2
1	西村	FP	FP	林	0
1	宮原藤	FP	FP	木野	6
5	竹野	FP	FP	北村	6
0	井上	FP	FP	東	1
3	餅原	FP	FP	野田	3
0	宮原宏	FP	FP	松本	0
0	小谷内	FP	FP	伊東	0
12	（1）	7MT	7MT	（3）	22

〔評〕 大崎は前日の対芝浦工大戦で金田が左足首をネンザして欠場したのが痛かった。金田のディフェンスは大崎のカナメであり、しかもポストプレーでは全日本ピカ一。したがって金田の欠場によって大崎の負けは予想していた。11月の東京都選手権決勝で大崎が15―12で勝ってはいるが、全日本のトップレベルにあるチームで、役者が一枚減ったらどうしようもない。ここに大崎の敗因があったといっていい。

さらに大崎にとってマイナスだったことは、速攻の中心となる井上を使わなかったことだ。というのは井上に全立大の木野をマークさせたことである。この作戦は当然だが、足のある井上にマークさせたのはどう考えてもわからない。これで井上のプレーは完全に死んでしまった。もっともこの作戦は、7月の全日本学生選手権決勝で、芝浦工大の関根が、立大の木野を完全にマークして成功した例がある。関根も井上と同様足があり、速攻のカナメとなっている。だから井上にマークを命じたベンチの気持ちもよくわかるが、同じマークさせるなら、田口あたりがよかったのではなかったか。

田口という選手はディフェンスの名人である。田口を使うことは惜しい気もするだろうが、世界選手権2回連続出場、中国にも遠征したベテランである。木野をマークするぐらい朝メシ前だろう。私が監督だったら田口に木野をマークさせ、井上の足を存分に使かったところだ。このへんに監督としてのむずかしさがある。今野監督も「田口を使おうと思ったんですが…」とあきらめられない表情だった。

それにしても、後半14分から全立大に連続8ゴールを許した大崎のディフェンスはいったいどうしたことか。こんなことは考えられないことだ。これが試合というものなんだろう。（鴛尾武治）

芝浦、速攻で勝つ

芝浦工大 16（7―4 / 9―1）5 **大阪イーグルス**

「レフェリー」佐藤敦（教大出）「ゴールジャッジ」岡村昭二（教大出）安藤純光（法大出）

得	大阪			芝浦	得
0	光島	GK	GK	渡辺	0
0	島崎	GK	GK	山村	0
0	松尾	FP	FP	近藤	3
0	山本	FP	FP	青山	1
0	丸岡	FP	FP	近森	6
2	東	FP	FP	吉金	2
0	藤井	FP	FP	関根	3
1	井上	FP	FP	山田	1
1	青木	FP	FP	岩崎	0
0	北岡	FP	FP	竹内	0
1	加藤	FP	FP	小林	0
5	（0）	7MT	7MT	（3）	16

〔評〕 芝浦工大は得意の速攻をみせて大勝した。吉金、関根、山田の足によるもの。さらに近森のロング、近藤のロング、近藤の矢を射るようなシュート、青山のポストプレーなどすばらしい試合展開だった。イーグルスは芝浦工大のスピードについていけなかった。（鴛尾武治）

↑竹野（大崎電気）のジャンプシュート。対全立大（毎日新聞提供）

芝浦、正面攻撃が成功

全立大の追撃及ばず

芝浦工大が全立大の裏をかいて、正面から攻めた作戦が実を結んだ。

全立大は後半、芝浦工大の山田が左ヒザを痛めて退場し、コンビが大きくくずれたのを機に速攻に展じた。形勢は一変。あせった芝浦工大は反則を繰り返す。全立大は3本の7MTを決め、さらに若い北村、野田らの速攻で22分には10―10の同点に追いついた。

ここでちょっと息切れした全立大のスキをついて、芝浦工大の近森が23分に7MTを、27分にもあざやかなシュートを決めてようやく逃げ切った。(朝日新聞から)

▽19日

芝浦工大 12 (9―3, 3―7) 10 **全立大**

「レフェリー」岡村昭二(教大出)「ゴールジャッジ」安藤純光(法大出)佐藤敦(教大出)

得	全立大		芝浦	得
0	尾形	GK	渡辺	0
0	北田	GK	山村	0
0	安達	FP	近藤	0
4	江名	FP	青山	3
0	松本	FP	近森	6
0	伊東	FP	吉金	1
1	木野	FP	関根	0
3	北村	FP	山田	1
0	東	FP	岩崎	1
2	野田	FP	竹内	0
0	林	FP	小林	0
10 (3)		7MT		12 (1)

▽反則退場　岩崎

〔評〕芝浦工大は前半の大量リードがモノをいった。全立大は前半、遅攻ペースに巻き込もうとしたが、逆に芝浦工大の速攻ペースにはまってしまった。芝浦工大はエースの近森が見事なロングシュートを決めて15分には5―2とリード。その後も全立大の弱点である正面を攻め、青山のうまいポストプレーで連続5ゴール、大きく差を開いた。サイド攻撃が得意の

芝浦工大―全立大、前半25分青山のランニングシュートで9点目をあげる。

大崎電気3位

青木(大阪)健闘

大崎電気 17 (7―7, 10―5) 12 **大阪イーグルス**

「レフェリー」安藤純光(法大出)「ゴールジャッジ」岡村昭二(教大出)、佐藤敦(教大出)

得	大阪		大崎	得
0	光島	GK	福本	0
0	島崎	GK	下里	0
0	望月	FP	小谷内	1
0	山本	FP	北村	4
0	丸岡	FP	金田	2
0	東	FP	竹野	4
2	松尾	FP	井上	1
1	井上	FP	餅原	2
7	青木	FP	宮原宏	0
1	北岡	FP	西村	3
1	加藤	FP	坂野	0
12 (2)		7MT		17 (1)

〔評〕大崎の速攻、イーグルスの遅攻で始まった。大崎のペースかと思われたが、イーグルスは青木を中心としたフェイント・アンド・シュートの戦法で前半7―7のタイスコア。後半大崎は3分、8分、9分30秒に得点して10―8としてやっと落ち着きが出た。竹野、北村がむらなく得点したが、決勝リーグとしては凡戦。もっと走力を生かした攻防がほしかった。イーグルスの青木の7点はほめていい。(主審=安藤純光)

大崎電気、不覚をとる

女子決勝リーグ

▽17日

愛知紡 6（5－3、1－2）5 大崎電気

「レフェリー」松本重雄（教大出）「ゴールジャッジ」箱崎敬吉（教大出）岡前義春（日体大出）

〔評〕優勝候補筆頭の大崎電気が愛知紡に不覚をとった。ヨーロッパ遠征（5日に帰国）の疲れが出て調子が落ちているためか、動きが鈍く、ボールを横に回しすぎて突っ込みがたりなかった。それにせっかく変化のある攻撃の型を持ちながら、これといった決め手になる型がないのも響いた。愛知紡は基本技に劣りながらも、大崎とは対照的にボールを極力縦に流し、小林に集めてロング・シュートを打たせたのが成功した。愛知紡はつねにリードを保って楽にゲームを進めた。（朝日新聞から）

ご観戦中の高松宮殿下
左は外山東京都協会理事長、右は田村正衛氏（田村紡社長）

得	愛知		大崎	得
0	篠崎	GK	古谷	0
0	原田	GK	川崎	0
3	小林	FP	笠原	0
0	韮塚	FP	早川	0
2	伊藤	FP	宇井	3
0	古谷	FP	黒川	0
1	関口	FP	鈴木	2
0	高橋	FP	永井	0
0	近藤	FP	伊藤	0
0	村上	FP	加藤	0
0	小野	FP	小笠原	0
6	（0）	7MT	（3）	5

大洋デパート敗れる

田村紡 10（7－4、3－3）7 大洋デパート

「レフェリー」稲石三二（日体大出）「ゴールジャッジ」箱崎敬吉（教大出）、岡前義春（日体大出）

〔評〕田村紡は大洋の速攻に立ち上がり5分で4点を奪われたが、その後がっちり守備を固め、以後15分と後半9分まで大洋を無得点に押えた。この間に水谷が左の内藤、渡辺信を走らせ、大洋守備陣の甘さをついて逆転した。

▽反則退場 川口

大洋はサイドからの攻撃がなく、堅い守備にはばまれて無理なシュートを重ねて自滅した。田村紡の早い帰陣とディフェンスの厚さは、昨年以上の進境がうかがえた。（毎日新聞から）

得	大洋		田村	得
0	山口	GK	渡辺美	0
0	小原	GK	坂上	0
1	久連松	FP	種村	1
1	中村	FP	川口	1
0	枝尾	FP	水谷	1
1	新保	FP	小林	1
2	射場	FP	内藤	4
2	隈	FP	渡辺好	2
0	稲田	FP	清水	0
0	今村	FP	渡辺信	0
0	木原	FP	信藤	0
7	（1）	7MT	（0）	10

大洋のワンサイド（対愛知紡）

▽18日

大洋デパート 13（6－0、7－1）1 愛知紡

「レフェリー」岡前義春（日体大出）「ゴールジャッジ」箱崎敬吉（教大出）松本重雄（教大出）

得	大洋		愛知	得
0	山口	GK	篠崎	0
0	小原	GK	原田	0
5	久連松	FP	小林	0
0	中村	FP	韮塚	0
2	枝尾	FP	伊藤	0
4	新保	FP	古谷	0
2	射場	FP	関口	1
0	隈	FP	高橋	0
0	稲田	FP	近藤	0
0	今村	FP	村上	0
0	木原	FP	小野	0
13	（4）	7MT	（0）	1

〔評〕大洋は前日の田村紡戦とは見違えるような動きをみせた。前半1分、新保のシュートで先取点をあげ、8分には枝尾、9分には新保がゲットして試合の主導権をにぎった。愛知紡は大洋の速攻にあってゴール前にクギ付けされ、しかも反撃に転じてもシュートが決まらず、明らかにあせりがみえた。大洋は伸び伸びとプレーした。

大崎、やっと追いつく

大崎電気 10（5－4、5－6）10 田村紡

「レフェリー」箱崎敬吉（教大出）「ゴールジャッジ」稲石三二（日体大出）岡前義春（日体大出）

得	田村		大崎	得
0	渡辺美	GK	古谷	0
0	坂上	GK	川崎	0
3	種村	FP	笠原	1
1	川口	FP	早川	2
0	水谷	FP	宇井	1
0	小林	FP	黒川	1
3	内藤	FP	鈴木	5
3	渡辺好	FP	永井	0
0	清水	FP	伊藤	0
0	渡辺信	FP	加藤	0
0	信藤	FP	小笠原	0
10	（0）	7MT	（0）	10

〔評〕準決勝リーグは大崎が4－2で勝っている。田村としては雪辱戦。大崎は鈴木の強引なカットインで前半リードした。後半田村紡は、種村、内藤、渡辺好のコンビネーションプレーで連続4ゴールをあげて一気に9－7と逆転した。大崎は必死。早川のロング、さらに速攻、そしてタイムアップ寸前に鈴木のゴールでやっと引き分けた。（鷲尾武治）

堅い田村紡の防御

愛知紡後半無得点

▽19日

田村紡 9(4―3 / 5―0)3 愛知紡

「レフェリー」松本重雄(教大出)

「ゴールジャッ」岡前義春(日体大出)箱崎敬吉(教大出)

得	田村		愛知	得
0	渡辺美	GK	篠崎	0
0	坂上	GK	原田	0
2	種村	FP	小林	1
0	川口	FP	韮塚	0
3	水谷	FP	伊藤	0
0	小林	FP	関口	1
0	内藤	FP	古谷	1
2	渡辺好	FP	高橋	0
2	清水	FP	近藤	0
0	渡辺信	FP	村上	0
0	信藤	FP	小野	0
9	(1)	7MT	(0)	3

▽反則退場　伊藤

〔評〕田村紡は1分30秒渡辺好が7MTを失敗したあと、4分30秒、6分、6分30秒にパスミスを犯し、それを愛知紡に拾われていきなり0―3とリードされた。しかし7分渡辺好のシュートリバウンドを水谷が決めて待望の1点をあげた。そして徐々にペースを取り戻し、8分30秒清水が、9分に渡辺好がゲットしてたちまち3―3とタイスコア。このあと11分に愛知伊藤の反則退場による7MTを水谷が決めて4―3とリードを奪い返した。愛知紡は古谷、関口が突っ込みすぎ、小林にシュートチャンスがなかった。15分古谷のシュートもGK渡辺美の好守にはばまれて同点機をのがした。

後半になると、愛知紡は田村紡の2―4ディフェンスをどうしても破れない。それはフォーメーションが一つしかなく、ロングを押えられ、しかもボール回しにスピードがない。これはどうしようもない。もっとポストを生かすプレーが必要だった。田村紡は速攻の出足がよく、全員がよく走った、チャンスはすべてものにした。スピードの差で勝負がついた。田村紡はこれで2年連続優勝である。(主審=松本重雄)

馬場副会長から賞状をうける田村紡の川口主将

大崎電気最下位

単発な反撃が敗因

大洋デパート 7(3―1 / 4―5)6 大崎電気

「レフェリー」稲石三二(日体大出)

「ゴールジャッジ」松本重雄(教大出)、箱崎敬吉(教大出)

得	大洋		大崎	得
0	山口	GK	古谷	0
0	小原	GK	川崎	0
2	久連松	FP	笠原	0
0	中村	FP	早川	0
0	枝尾	FP	宇井	3
3	新保	FP	黒川	0
2	射場	FP	鈴木	2
0	隈	FP	永井	0
0	稲田	FP	伊藤	0
0	今村	FP	加藤	1
0	木原	FP	小笠原	0
7	(1)	7MT	(1)	6

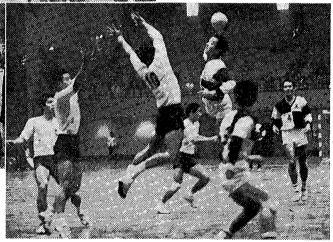
〔評〕両チームとも最初は中央攻撃が多く、それにボールを大きく回すので変化に乏しかった。特に大崎は突っ込みが単発でバックのフォローがおそく、タイミングが全然合っていない。だから鈴木の強引な突っ込みも無駄になってしまった。また無理なミドル・シュートもよくなかった。単調な攻撃が大崎の敗因。大洋はオープン攻撃から鋭いリターン・パスをサイドに集中したのがよかった。(主審=稲石三二)

芝浦工大
優勝スケッチ

←胴上げされる三浦
元秀ハンドボール部長

↓芝浦工大一全立大
岩崎のジャンプシュート

↑馬場副会長から賞状を
受ける芝浦工大の渡辺主将

記念撮影する芝浦工大チーム

ダイヤボールだけの書き味
スッキリとさえた書き味——
ダイヤボールだけのものです
ダイヤモンドの次に硬い合金
タングステンカーバイドのボールと
三菱独自のインクとのハーモニによって
はじめてこのさえた筆跡が生まれます
三菱ボールペン
●オフィス用　●ポケット用
¥30から¥500まで各種
S—300
¥　300
ダイヤボール
三菱鉛筆株式会社

全日本選抜選手権

男子準決勝リーグ戦績

大崎電気勝つ

▼14日

（A組）

大崎電気 25（15―15、10―5）20 日体大ク

	日体大ク	得	大崎	得
GK	高橋	0	福本	0
GK	佐藤	0	下里	0
FP	北山	2	田口	0
FP	沢田	7	小谷内	2
FP	結城	0	北村	0
FP	藤原	5	金田	2
FP	三友	5	宮原藤	1
FP	山口	0	竹野	5
FP	渡辺	1	井上	12
FP	小林	0	餅原	3
FP	木村	0	西村	0

25（1）7MT（2）20

〔評〕前半日体大クは走らず、大崎のディフェンスをくだせなかった。一方、大崎はよく走り、井上が活躍して前半から試合の主導権を握った。（主審＝安藤純光）

同志社大善戦

全立大 24（14―8、10―5）13 同志社大

	同大	得	全立大	得
GK	林谷	0	尾形	0
GK	和保	0	北田	0
FP	守本	1	安達	6
FP	佐藤	0	中根	1
FP	林	2	江名	3
FP	飯田	6	松本	0
FP	稲葉	0	林	0
FP	松浦	4	木野	7
FP	藁品	0	北村	3
FP	小寺	0	野田	2
FP	栂野	0	東	2

24（1）7MT（1）13

〔評〕立ち上がり両チームとも動きが鈍かった。その後全立大は体力にものいわせて差をつけた。同大は飯田を中心によく追いかけたが、全立大ディフェンスを破れなかった。（主審＝佐野和夫）

千代田も善戦

（B組）

芝浦工大 30（15―8、15―8）16 千代田印刷機

〔評〕練習量と若さにまさる芝浦の勝利は順当。千代田に昨年のような若さが見られないのは寂しい。千代田は青木が一人がすばったが、力尽きた。（主審＝稲石三二）

芝浦工大―千代田戦。後半29分山田（芝浦）シュートして30点目をあげる（産経新聞提供）

	千代田	得	芝浦	得
GK	永富	0	渡辺	0
GK	村田	0	山村	0
FP	木田繁	0	近藤	7
FP	青木	8	青山	0
FP	宮永	0	近森	7
FP	木田雅	2	吉金	4
FP	佐久間	1	関根	3
FP	安藤	3	山田	7
FP	佐藤	2	岩崎	0
FP	鈴木	0	竹内	2
FP	松波	0	小林	0

30（3）7MT（3）16

イーグルス 関学 引き分け

大阪イーグルス 16（13―8、3―8）16 関学 引き分け

	関学	得	大阪	得
GK	石田	0	光島	0
GK	松田	0	島崎	0
FP	高須	3	山本	0
FP	藪田	1	丸岡	0
FP	西野	1	東	0
FP	飯端	6	藤井	0
FP	石井	3	井上	8
FP	宮本	2	青木	3
FP	吉田	0	北岡	2
FP	永井	0	加藤	3
FP	佐藤	0	松尾	0

16（1）7MT（3）16

〔評〕前半関学は飯端を中心に自己のペースで試合を進めた。イーグルスはオフェンスのパスワークの乱れで苦戦。後半半ばからイーグルス追い込んで27分加藤のシュートで同点とし、引き分けた。関学は惜しい試合をのがした。イーグルスの粘りはさすが。（主審＝松本重雄）

日体大健闘

▼15日

（A組）

全立大 25（17―8、8―6）14 日体大ク

	全立大	得	日体	得
GK	尾形	0	高橋	0
GK	北田	0	佐藤	0
FP	江名	4	北山	5
FP	松本	0	沢田	1
FP	伊東	0	結城	2
FP	林	1	藤原	1
FP	木野	5	三友	1
FP	北村	9	山口	0
FP	東	2	渡辺	2
FP	野田	4	小林	0
FP	山口	0	神谷	2

14（2）7MT（1）25

〔評〕日体大クは前半健闘したが、後半走れず完敗した。全立大は安達、中根が抜けたけれど、木野、北村のロングシューターの活躍で一方的に勝った。（主審＝安藤純光）

大崎電気2勝す

大崎電気 33（16―6、17―9）15 同志社大

	同大	得	大崎	得
GK	林谷	0	福本	0
GK	和保	0	下里	0
FP	守本	1	田口	0
FP	佐藤	3	小谷内	1
FP	林	3	北村	6
FP	飯田	5	金田	5
FP	稲葉	2	宮原藤	1
FP	松浦	1	竹野	5
FP	藁品	0	井上	11
FP	小寺	0	餅原	1
FP	栂野	0	宮原宏	3

33（2）7MT（1）15

〔評〕大崎はオフェンス、ディフェンスともよかった。とくに速攻、セットオフェンスでミスがな

く、全員の動きもよく、コンビがとれて美しかった。またディフェンスでは、小さく早い出足が同大の動きを完全に封じていた。同大はオフェンスで横への動きが多く、ポストもほとんど生かされていなかった。したがってロングが死んでいた。さらにサイド攻撃もなく、中央に固執しすぎていた。（主審＝岡村昭二）

千代田善戦むなし

（B組）

大阪イーグルス 23（9－7／14－8）15 千代田印刷機

得	大阪		千代田	得
0	光島	GK	永富	0
0	島崎	GK	村田	0
0	望月	FP	青木	5
0	山本	FP	木田繁	0
1	丸岡	FP	宮永	0
3	東	FP	木田雅	3
2	松尾	FP	佐久間	4
6	井上	FP	安藤	1
5	青木	FP	佐藤	2
2	北岡	FP	鈴木	0
4	加藤	FP	松波	0
23（5）		7MT		（2）15

準決勝リーグ勝敗表

男子A組	全立	大崎	日体	同大	勝負分
全立大	×	○	○	○	3 0 0
大崎電気	●	×	○	○	2 1 0
日体大ク	●	●	×	○	1 2 0
同志社大	●	●	●	×	0 3 0

男子B組	芝浦	大阪	関学	千代田	勝負分
芝浦工大	×	○	○	○	3 0 0
大阪イーグルス	●	×	△	○	1 1 1
関学	●	△	×	○	1 1 1
千代田印刷機	●	●	●	×	0 3 0

（B組は得点率で大阪が上位）

〔評〕大阪の勝因は最後までスピードを落とさなかったこと。前半はほぼ互角。後半の千代田は木田雅―青木のコンビが乱れ、単発なシュートが大阪の逆襲に結びついてしまった。（主審＝箱崎敬吉）

関学がんばる

芝浦工大 18（10－6／8－8）14 関学

得	芝浦		関学	得
0	渡辺	GK	石田	0
0	山村	GK	松田	0
5	近藤	FP	高須	1
4	青山	FP	藪田	4
3	近森	FP	西野	1
4	吉金	FP	永井	1
1	関根	FP	石井	5
1	山田	FP	宮本	0
0	岩崎	FP	吉田	0
0	竹内	FP	佐藤	0
0	小林	FP	飯端	2
18（1）		7MT		（3）14

〔評〕得点差は少なかったが、芝浦工大の方が動き、パスワークにまさっていた。芝浦は近森、近森、近藤の好プレーで得点、関学は遅攻に出てゆっくりボールを回し、サイド攻撃で得点していた。（主審＝佐野和夫）

▼16日

（A組）

全立大、大崎を破る

全立大 14（5－3／9－8）11 大崎電気

〔評〕全立大は試合前から大崎にたいするファイトはたいへんなものがあった。しかし両チームとも勝とうとする気持ちが大きかったので動きが鈍くなってしまった。前半は全立大のペースで試合が進んだ。後半になっても大崎は得意の速攻が出ず、全立大の完勝に終わった。全立大若さの勝利だろう。（主審＝稲石三二）

得	全立大		大崎	得
0	尾形	GK	福本	0
0	川口	GK	下里	0
0	安達	FP	小谷内	0
1	江名	FP	北村	1
1	松本	FP	金田	1
1	伊東	FP	宮原藤	2
0	林	FP	竹野	2
9	木野	FP	井上	5
0	山口	FP	餅原	0
2	東	FP	西村	0
0	野田	FP	田口	0
14（0）		7MT		（0）11

日体大1勝

日体大ク 23（14－8／9－12）20 同志社大

得	日体		同大	得
0	高橋	GK	林谷	0
0	佐藤	GK	和保	0
3	北山	FP	守本	3
3	沢田	FP	佐藤	2
6	結域	FP	林	4
2	藤原	FP	飯田	7
7	三友	FP	稲葉	2
0	山口	FP	松浦	2
2	渡辺	FP	藁品	0
0	小林	FP	小寺	0
0	神谷	FP	栂野	0
23（0）		7MT		（0）20

〔評〕日体大クの若手OBが走り、細かいパスはすばらしかった。これが勝因。同大は善戦したが、コマ不足の感。（主審＝松本重雄）

（B組）

芝浦工大辛勝

芝浦工大 11（5－5／6－5）10 大阪イーグルス

〔評〕スリルに富んだ試合。大阪の遅攻に芝浦がはまり込んだ感があった。後半になっても接戦。20分30秒には10－9と大阪がリードした。芝浦は21分50秒近森がゲットして10－10、22分40秒には近藤の好プレーで11－10と逆転に成功した。芝浦は前半に近藤が7MTを2本失敗したのが苦戦の因となった。（主審＝安藤純光）

得	大阪		芝浦	得
0	光島	GK	渡辺	0
0	島崎	GK	山村	0
1	松尾	FP	近藤	4
0	山本	FP	青山	0
0	丸岡	FP	近森	2
2	東	FP	吉金	0
0	藤井	FP	関根	1
2	井上	FP	山田	4
3	青木	FP	岩崎	0
1	北岡	FP	竹内	0
1	加藤	FP	小林	0
10（0）		7MT		（0）11

千代田惜敗

関学 14（5－10／9－3）13 千代田印刷機

得	関学		千代田	得
0	石田	GK	永富	0
0	松田	GK	村田	0
1	高須	FP	青木	4
0	藪田	FP	木田繁	1
2	西野	FP	宮永	1
7	飯端	FP	木田雅	1
1	石井	FP	佐久間	3
2	宮本	FP	安藤	3
1	永井	FP	佐藤	0
0	吉田	FP	鈴木	0
0	佐藤	FP	松波	0
14（4）		7MT		（2）13

▽反則退場　藪田、宮永

〔評〕千代田は前半5点差をつけた。後半になると関学はピッチを上げ、12－12、13－13とシーソゲームを展開。タイムアップ寸前に関学は幸運にも7MTに恵まれ、飯端が見事決めて決勝点をあげた。（主審＝佐藤敦）

女子準決勝リーグ戦績

東京重機善戦

▽14日
（A組）
大洋デパート 14（8−2 6−1）3 東京重機

〔評〕前半7分まで重機が2−0とリード。大洋は徐々にピッチをあげ11分隈のシュート3−2と逆転。このあと大洋のペースとなった。久連松のリードが光った。中村のミドル・シュートはすばらしい。重機は斎藤の好プレーが光った。（主審＝佐藤敦）

得	大洋		重機	得
0	山口	GK	高野	0
0	小原	GK		
4	久連松	FP	斎藤	2
4	中村	FP	川本	0
2	枝尾	FP	山崎	0
1	新保	FP	山口	0
0	射場	FP	能登	0
3	隈	FP	鷺谷	0
0	稲田	FP	西山口	1
0	今村	FP		
0	木原	FP		

14（1）7MT（0）3

愛知紡—日体大、前半25分日体大の原（左側転倒）のジャンプシュート。愛知紡のGK篠崎の好守にはばまれる（毎日新聞提供）

愛知紡勝つ

愛知紡 11（7−2 4−5）7 日体大

得	愛知		日体大	得
0	篠崎	GK	明神	0
0	原田	GK	小野里	0
3	小林	FP	田井	1
0	韮塚	FP	北口	3
3	伊藤	FP	津田	1
3	古谷	FP	原	0
2	関口	FP	北村	2
0	高橋	FP	川口	0
0	近藤	FP	白石	0
0	村上	FP	八木	0
0	小野	FP	小野塚	0

7（1）7MT（0）11

〔評〕両チームともセットオフェンスにはいると動き鈍い。愛知はボールの動きが早く、古谷のリードがよかった。日体大は一応フォーメーションをこなすが、北村にたよりすぎて自滅した。（主審＝岡村昭二）

（B組）

三菱鉛筆健闘

大崎電気 10（6−1 4−1）2 三菱鉛筆

〔評〕大崎の一方的な勝利。三菱は大崎の早い帰陣で速攻がかけられず、ボール回しが精いっぱい。（主審＝篠崎敬吉）

得	三菱		大崎	得
0	林	GK	古谷	0
0	阿部	GK	川崎	0
2	三井田	FP	笠原	2
0	佐々木洋	FP	早川	1
0	鈴木	FP	宇井	2
0	木村	FP	黒川	2
0	江川	FP	鈴木	1
0	藤盛	FP	永井	1
0	蓮見	FP	伊藤	0
0	佐々木房	FP	加藤	1
		FP	小笠原	0

10（2）7MT（0）2

垂水、2点をあげる

田村紡 16（7−0 9−2）2 菊池農高

得	菊池		田村	得
0	有働	GK	渡辺美	0
0	中田	GK	坂上	0
0	早川	FP	種村	2
2	垂水	FP	川口	1
0	青木	FP	水谷	2
0	松野	FP	小林	1
0	渡辺	FP	内藤	3
0	愛垣	FP	渡辺好	7
0	東	FP	清水	0
0	和田	FP	渡辺信	0
0	谷口	FP	信藤	0

16（0）7MT（1）2

〔評〕田村は走力、ハンドリングにすぐれ、一方的な試合となった。菊池の攻撃は単調すぎた。（主審＝岡前義春）

▽15日
（A組）

愛知紡楽勝

愛知紡 12（6−2 6−4）6 東京重機

〔評〕愛知紡はスピードにすぐれ、古谷、関口、小林の活躍で重機を押えた。重機は最少限度のチーム編成のため敗れた。（主審＝佐藤敦）

得	愛知		重機	得
0	篠崎	GK	高野	0
0	原田	GK		
2	小林	FP	斎藤	3
0	韮塚	FP	川本	1
2	伊藤	FP	山崎	1
4	古谷	FP	山口	0
3	関口	FP	能登	1
0	高橋	FP	鷺谷	0
0	近藤	FP	西山口	0
1	村上	FP		
0	小野	FP		

6（1）7MT（1）12

日体大健闘むなし

大洋デパート 14（4−3 10−3）6 日体大

後半5分大崎電気の鈴木—三菱鉛筆のしつようなディフェンスをかわしてシュート、対三菱鉛筆

得	日体大		大洋	得
0	明神	GK	山口	0
0	小野里	GK	小原	0
2	田井	FP	久連松	3
2	北口	FP	中村	2
1	津田	FP	枝尾	4
0	原	FP	新保	5
0	北村	FP	射場	0
1	川口	FP	隈	0
0	白石	FP	稲田	0
0	八木	FP	今村	0
0	小野塚	FP	木原	0
6	(0)	7MT	(1)	14

〔評〕日体大は前半、大洋の乱れをうまくついて善戦したが、後半走り負けた。個人プレーの完成と同時にセットをマスターするのが望ましい。（主審＝松本重雄）

（B組）

江川（三菱）の好プレー

田村紡 17（6−1、11−3）4 三菱鉛筆

〔評〕走力、個人技にまさる田村紡の勝ちは順当。しかしディフェンスの荒さは一考を要する。三菱はチーム結成まもないが、将来大いに楽しみのある選手が多い。（主審＝稲石三二）

得	田村		三菱	得
0	渡辺美	GK	林	0
0	坂上	GK	阿部	0
5	種村	FP	三井田	0
0	川口	FP	佐々木房	0
6	水谷	FP	鈴木	0
1	小林	FP	木村	0
4	内藤	FP	江川	4
1	渡辺好	FP	藤盛	0
0	清水	FP	蓮見	0
0	渡辺信	FP	佐々木洋	0
0	信藤	FP		
17	(3)	7MT	(3)	4

準決勝リーグ勝敗表

女子A組	大洋	愛知	日体	重機	勝負分
大洋デパート	×	○	○	○	3 0 0
愛知紡	●	×	○	○	2 1 0
日体大	●	●	×	○	1 2 0
東京重機	●	●	●	×	0 3 0

女子B組	大崎	田村	菊池	三菱	勝負分
大崎電気	×	○	△	○	2 0 1
田村紡	●	×	○	○	2 1 0
菊池農高	△	●	×	○	1 1 1
三菱鉛筆	●	●	●	×	0 3 0

大崎電気苦戦

大崎電気 10（4−7、6−3）10 菊池農高

得	大崎		菊池	得
0	古谷	GK	有働	0
0	川崎	GK	中田	0
0	笠原	FP	早川	0
2	早川	FP	垂水	6
3	宇井	FP	青木	1
1	黒川	FP	松野	1
2	鈴木	FP	渡辺	2
1	永井	FP	愛垣	0
1	加藤	FP	東	0
0	伊藤	FP	和田	0
0	小笠原	FP	谷口	0
10	(3)	7MT	(2)	10

▽反則退場　東

〔評〕引き分けたとはいえ、大崎は完全に負けていた試合。欧州遠征の疲れは残っているが、攻守とも一ついいところがなかった。帰国後10日目の全日本大会は肉体的にも無理だったといえよう。逆に菊池は負けてもともとという気持ちから伸び伸びプレーした。これが菊池にとってよかった。垂水がよくやった。参考までに後半15分まで10−6と菊池がリードした。必死に追い駆ける大崎。見ていて気の毒なくらい。やっと19分にタイにしたが、大崎にとっては苦しかったことだろう。（共同通信＝鴛尾武治）

▽16日

（A組）

大洋デパート勝つ

光る久連松のプレー

大洋デパート 12（3−3、9−2）5 愛知紡

得	大洋		愛知	得
0	山口	GK	篠崎	0
0	小原	GK	原田	0
6	久連松	FP	小林	2
1	中村	FP	韮塚	0
0	枝尾	FP	伊藤	2
3	新保	FP	古谷	1
1	射場	FP	関口	0
1	隈	FP	高橋	0
0	稲田	FP	近藤	0
0	今村	FP	村上	0
0	木原	FP	小野	0
12	(1)	7MT	(0)	5

〔評〕大洋の勝利は順当。世界選手権に出場した久連松、新保のプレーはよかった。欧州遠征前に比べると、この二人のプレーに幅ができたし、チームを引っ張っていく力がついた。久連松には新保ほどのはなやかさはないが、速い動きで愛知のディフェンスをくずし、自らチャンスメーカーとなっていた。新保も走れるようになったし、ロングはすばらしかった。

愛知は古谷を中心によくがんばったが、大洋の厚い壁を破れず、後半大きく水をあけられてしまった。（共同通信＝鴛尾武治）

日体大辛勝

斎藤（重機）大活躍

日体大 11（6−4、5−6）10 東京重機

得	日体		重機	得
0	明神	GK	高野	0
0	小野里	GK		
2	田井	FP	斎藤	9
4	北口	FP	川本	0
1	津田	FP	山崎	0
1	原	FP	山口	0
1	北村	FP	能登	0
2	川口	FP	鷺谷	0
0	白石	FP	西山口	1
0	八木	FP		
0	小野塚	FP		
11	(0)	7MT	(1)	10

〔評〕総合力は互角。ゴール前での走り、これが勝敗を分けた。重機は斎藤が一人で9点をあげたが、惜しくも1点差に泣いた。（主審＝佐藤敦）

（B組）

大崎、田村紡を押える

早川のロング決まる

大崎電気 4（1−1、3−1）2 田村紡

得	大崎		田村	得
0	古谷	GK	渡辺美	0
0	川崎	GK	坂上	0
0	笠原	FP	種村	0
2	早川	FP	川口	0
1	宇井	FP	水谷	1
1	黒川	FP	小林	0
0	鈴木	FP	内藤	0
0	永井	FP	渡辺好	1
0	伊藤	FP	清水	0
0	加藤	FP	渡辺信	0
0	小笠原	FP	信藤	0
4	(0)	7MT	(0)	2

〔評〕スタートは両チームとも堅くなり、ハンドリングが悪かった。5分30秒渡辺好のゲットで田村が先取点すると、やっと両チームとも動きが活発になった。互いにディフェンスが堅かったので、容易に突っ込めない。後半になると大崎は早川のロングが決まり、田村の追撃を断ち切った。大崎にしても田村にしても、サイド攻撃が弱いのが欠点だ。中央オフェンスにしても、ダブルクロスがなかった。（主審＝岡村昭二）

菊池1勝あげる

菊池農高 7（5−3、2−1）4 三菱鉛筆

得	三菱		菊池	得
0	林	GK	有働	0
0	阿部	GK	中田	0
1	三井田	FP	早川	0
0	佐々木房	FP	垂水	1
3	鈴木	FP	青木	2
0	木村	FP	松野	0
0	江川	FP	渡辺	4
0	藤盛	FP	愛垣	0
0	蓮見	FP	東	0
0	佐々木洋	FP	和田	0
		FP	谷口	0
4	(0)	7MT	(0)	7

〔評〕菊池のディフェンスは堅く、三菱はこれを破れなかった。しかも菊池は三菱の三井田を徹底的にマークしたので、三菱は得点力が半減した。一方、菊池は左右からのゆさぶりから渡辺の左を利かしたポストプレーが成功した。三菱にロングヒッターがいれば、試合はもっとおもしろくなったと思う。（主審＝岡前義春）

昭和40年10大ニュース

第1位は女子世界選手権の初勝利

オリンピック復活が第2位

昭和40年の日本ハンドボール界は例年以上に多彩な話題でにぎわった。本誌編集部は、これらのトピックスの中から恒例の10大ニュースを次のように選んだ。

①第3回女子7人制世界選手権大会で初勝利を飾り7位（11月）

10月プラハで行なわれた2回戦でチェコに敗れたが、ソ連が決勝リーグ出場を放棄したため、幸運にも本大会出場となった。そしてポーランドを6－5で破り、宿願の初勝利を飾るとともに7位に入賞した。また大会前後の国際試合では17戦16勝1引き分けのすばらしい成績をあげた。

②1972年のオリンピック大会にハンドボール復活（10月）

10月マドリードで開かれたIOC総会の席上、1972年のオリンピック大会（開催地未定）で、オリンピック憲章の全21競技を実施することに決定、ハンドボールが36年ぶりに復活した。東京大会でいったん開催が決まりながら実現しなかっただけに、日本ハンドボール界にとって、このニュースは感無量であった。

③男女ベスト8による全日本選抜選手権の実施（12月）

強チーム同士による試合をふやしてトップレベルの向上を図るため、全日本総合室内を協会推薦の男女8チームによる選抜選手権に改めた。大会は連日熱戦が続き、この企画は上々の成績をあげた。なお、優勝は男子が芝浦工大（東京）が初優勝、女子は田村紡（三重）が2連勝した。

④沖縄協会の設立と日本球界への加盟（7月）

かねてから結成準備を進めていた沖縄ハンドボール界は、3月の日本高校チームの訪問で急速に活発化し、7月16日正式に発足（会長・仲田豊順氏、理事長・平仲孝栄氏）。8月の全国高校選手権に興南高（男）が初参加、2勝して3回戦に進み注目された。なお、12月には全日本高校男女選抜チームが訪問、全沖縄高校選抜チームなどと交歓した。

⑤全日本男子、中国に遠征（4月）

IHF非加盟国ながら、その実力を高く買われている中国との国際試合は多くの成果をあげた。若手が多いメンバーとはいえ、9戦1勝8敗の成績に終わったのは〝中国強し〟の印象を強くした。なお、第2回日中交流はことし9月、中国チームを招いて行なわれる。

⑥全日本実業団連盟誕生（10月）

昨年2月大阪で行なわれた第5回全日本実業選手権のとき、全日本実業団連盟が発足した。規約の整備、役員の交渉などを進めた結果、10月初め常務理事会を開き、初代会長に古賀和佐雄氏（千代田印刷機製造株式会社社長）、理事長に渡辺和美氏（大崎電気工業株式会社社長）などを決め、その活動が本格化した。

⑦日本協会、規約を全面的に改正（11月）

球界の大型化、国際化にともなう日本協会規約の改正は小委員会の手で進めら、11月9日から新規約が発効した。新規約は役員構成の面で新味が盛られ、組織面でも実体に即した線が打ち出された。

⑧式場隆三郎会長死去（11月）

第3代会長・式場隆三郎氏は11月21日ガン性腹膜炎のため死去された。67歳。故会長は昭和21年、日本ハンドボール協会長となられ、以後、戦後のハンドボール界の復興と普及、さらに国際舞台への進出に大きく貢献された。この功績のため、なくなられる1カ月前、藍綬褒賞を受章された。なお、葬儀は日本ハンドボール協会葬として11月27日東京で行われた。

⑨芝浦工大、トリプル・クラウン（7月、11月、12月）

芝浦工大は第8回全日本学生選手権に2年連続7回目の優勝を飾ったのをはじめ、第18回全日本学生王座決定戦に5年連続8回目、第12回全日本選抜選手権に初優勝、全日本の3大タイトルを握った。芝浦工大は40年度のナンバー・ワンとなった。学生王座獲得は関学とタイ記録。

⑩桜台高（愛知）、高校ダブルタイトル獲得（8月、10月）

桜台高はことしも高校界の名門らしい強味を見せ、第16回全国高校選手権に2年ぶり9回目、第20回国体高校の部に2年連続9回目の優勝を獲得した。同校のダブル・クラウンはこれで7回目。

次点（順不同）

▽高嶋理事長、日本体協理事に当選（3月）▽全日本学生選手権に女子部門発足（7月）▽国体で地元岐阜県が総合優勝（10月）▽大阪イーグルスの活躍 ▽西ドイツ海軍、ドイツチェランド号チームと交歓試合（3月）

楽書帖

ことしもいそがしい

鷲尾武治

○…ことしもまた、いそがしい年になりそうだ。ナショナルチームを編成して第6回男子7人制世界選手権大会（来年1月・スウェーデン）の準備しなければならないし、6月には西ドイツの男女チームがやってくる。そして9月にはお隣の中国から男子チームが初めて日本に遠征してくる。日本協会も、そして地方の協会も、このお客さんの受け入れに追い回されることだろう。それにそろそろオリンピック対策も立てなければならないし、日本体育協会や日本オリンピック委員会（JOC）との折衝もあって、のんびりと休息をとる時間もないことだろう。ビタミン剤でも飲んで大いにハッスルしてもらいたいね。

○…昨年12月の全日本選手権大会で芝浦工大が初優勝したが、三浦ハンドボール部長、中沢監督、佐藤コーチの三人は口をそろえて「いま考えると、夏の全日本総合選手権（大分市）で優勝できなかったのが残念。下痢症状さえなければ4大タイトルだったのに…」とくやしがる。それを聞いた大崎電気の選手たちは「夏の全日本で芝浦工大に勝っていてほんとうによかった。芝浦工大に4大タイトルを取られては、大崎電気のメンツが丸つぶれだよ」と蚊の鳴くような声でボソボソ。大崎電気もこの大会に優勝すれば、4大タイトルのチャンスだっただけに、芝浦工大、全立大に負けたのは大きなショックだったようだ。

○…女子の田村紡は2連勝が決まった瞬間、宇津野コーチは選手たちと肩を組んで男泣きに泣いた。40分間走り続けた若い乙女たちは、顔をクシャクシャにして泣いた。キャップテンの川口さんは「社長さんが見ていらっしゃるので、なんとしても優勝したかった。大崎電気には10人、大洋には3人の世界選手権出場者がいますが、うちのチームが負けるとは思ってもいなかった。大洋の久連松さんのプレーはすばらしいですね。あたしもあんなプレーがしたい」、宇津野コーチも「大崎のプレーは、同じ流れ（リズムのこと）なのでやりやすかった。大洋の久連松はいい選手ですね」と自分の優勝よりも敵をほめる。

○…注目されていた大崎電気の女子は、あえなく4位。「どうしたんだろうか。優勝すると思っていたのに…。やっぱりヨーロッパ遠征の疲れが残っているのだろう。日ごろの半分も力が出ていないようだ。帰国後10日たらずで全日本大会では気の毒だ」という声しきり。

○…全日本選抜選手権のゴールジャッジは、日本の第一線級の人たちばかり。佐野君（教大出）安藤君（法大出）岡村君（教大）など…。これからもこうありたい。

時評

サッカーの人気とハンドボール

○…サッカーがたいへんな人気を呼んでいる。オリンピック東京大会後、これほど躍進したスポーツはあるまい。ムードが高まったところで「日本リーグ」を発足させ、「3国対抗」とたたみかけた日本サッカー協会の手ぎわもあざやかだ。サッカー界はPRがうまいんだと、しっとまじりの声も聞えるが、国内スポーツ界に〃サッカー旋風〃が吹いているのは事実だ。サッカーへの熱狂は世界的なものだ。

○…南米では試合ごとに10万を越す観衆が押しかけ、ヨーロッパ各国でも国際試合になると国をあげて大騒ぎになるという。ところで、かつては「手でやるサッカー」と説明し、数ある球技の中でも親類づきあいのハンドボールは人気の上で、国内外とも完全にサッカーに差をつけられてしまったようだ。日本の場合、昭和12年にやっとデビューしたハンドボールと、明治40年に国内初試合が行なわれたサッカーとでは、その歴史においてすでに差があるのだ。歴史の差は実績の差であり、層の差であり、認識度の差でもある。

○…昨年12月、東京で開かれた「全日本選抜選手権」はいわば、ハンドボールの日本リーグといえるものだ。しかもこの大会前、オリンピックでの復活が決まり、女子の全日本チームが第3回世界選手権大会で宿願の1勝（初勝利）をあげ、7位にはいる健闘を示すなどムードは大いに盛り上がってきた。高嶋理事長は機会あるごとに『強いチームによる好試合』を強調しているが、せっかく強いチームが集まってよい試合をしても、見る人が少なくては意義も薄れよう。

○…一般の中にハンドボールファンがいないわけではない。昭和31年9月、西ドイツ対全日本を見に後楽園競輪場を埋めたファンは1万9千。昭和35年6月、西宮のルーマニア対全関学に集まった約4000人のファンの大半は〃背広のファン〃であった。協会の打つ手さえよければ、これらのファンを再び誘うことができるのではないか。サッカー界はいま、7月イギリスで開かれる第8回世界選手権見学旅行団を募集している。サッカー界の自信がうかがえるうらやましい企画である。ハンドボール界が、これと同じ計画を実行するまでには、いまのままではあと半世紀はかかりそうだ。この差を1日でも縮めることが急務であろう。（S）

○…S君のこの記事に補足するが、昨年12月の全日本選抜選手権大会の有料入場者は6日間で4200人。これが無料だと、入場者はゼロに近い。だが新聞記者席が超満員。連日紙面を飾ってくれた。これからはハンドボールの天下になろう。（幸）

女子ヨーロッパ遠征

親善試合詳報

親善試合では全勝（対チェコ戦）

▽第1戦（10月28日午前11時30分、モスト市メジボデ・ホール）

日本 15（10―5 / 5―7）12 リトビノフ選抜

得	(日本)			(リトビノフ)	得
0	古　谷	GK	GK	ブレントバ	0
0	川　崎	GK	FP	ホロドコバ	1
2	宇　井	FP	FP	エデロバ	2
0	久連松	FP	FP	ストネロバ	1
3	笠　原	FP	FP	レズニコバ	0
1	黒　川	FP	FP	イフェロバ	0
2	早　川	FP	FP	ハルトスノバ	1
5	鈴　木	FP	FP	ヘロバ・ヤノ	5
0	高　山	FP	FP	ノイブルトバ	1
0	永　井	FP	FP	ムラーチ	0
2	新　保	FP	FP	ヘロバ・イブ	1
0	加　藤	FP	FP	ベランコバ	0
15	(2)	7MT	7MT	(0)	12

▽反則退場　ノイブルトバ

〔評〕試合開始直後の40秒に早川が先取点をあげた。チェコ・ナショナルチームに2連敗したので、これからの親善試合は全勝の意気込み。だが前半はシュートが結びつかず、なかなかの苦戦。結局5―7と2点リードされた。

しかしリトビノフのGKのウイークポイントを見抜いた。遠方のボールに弱いこと。後半徹底的にこの戦法をとった。後半1分40秒笠原が中央突破、4分10秒新保が左45度、5分10秒笠原が右45度、7分30秒、8分に鈴木が連続してフェイントをかけてチェコのディフェンスを突破、11分30秒またも鈴木が左45度から得点した。11―9とたちまち逆転。このあとも13分宇井が7MT、14分40秒新保が中央からすばらしいロングを決め、15分30秒に宇井が2本目の7MT。そしてタイムアップ寸前に黒川が決めて試合終了。午後ビリナ選抜チームと対戦する。

▽第2戦（10月28日午後3時30分、ビリナ市＝屋外コート）

日本 21（11―3 / 10―1）4 ビリナ選抜

得	(日本)			(ビリナ)	得
0	古　谷	GK	GK	マエロブ・ヤナ	0
0	川　崎	GK	GK	ブラヨバ	0
1	宇　井	FP	FP	ブルジノバ	0
3	久連松	FP	FP	ネブルンスカ	0
2	笠　原	FP	FP	ミハルコバ	0
1	黒　川	FP	FP	フィシェロバ	0
5	早　川	FP	FP	バールトバ	0
4	鈴　木	FP	FP	ドリーノバ	0
0	高　山	FP	FP	シナイドロバ	2
1	永　井	FP	FP	クチェロバ	0
3	新　保	FP	FP	ベランコバ	2
1	加　藤	FP	FP	ボダコバ	0
			FP	チェルニコバ	0
21	(0)	7MT	7MT	(0)	4

〔評〕日本は10分までに4―1とリード、その後も速攻をかけてビリナを圧倒した。前半ビリナはベランコバが1点をあげただけ。後半も走りまくって大勝した。午前中リトビノフ選抜とゲームし、バスの中で着替えるというあわただしさ。ビリナに着いて昼食を終わったあと、30分後のゲームとは驚いた。観衆1、500人。ビリナ選抜はユニホーム、スパイクがすばらしくりっぱなので、どんなに強いかと思ったほど。この試合に勝って選手たちごきげん。

▽第3戦（10月30日午後7時、ウェルスケヘエディシチェ・スポーツホール）

日本 21（9―3 / 12―3）6 スパルタク・ハラデイチャン

得	(日本)			(スパルタク)	得
0	古　谷	GK	GK	ムラズコバ	0
0	川　崎	GK	GK	マーシオバ	0
1	宇　井	FP	FP	フリドリホバ	0
2	久連松	FP	FP	クワスニチコバ	2
5	笠　原	FP	FP	マエロバ	0
1	黒　川	FP	FP	トスーンコバ	0
3	早　川	FP	FP	コシンコバ	0
4	鈴　木	FP	FP	ベレビロバ	0
0	高　山	FP	FP	クライチョバ	0
1	永　井	FP	FP	ボンドラチコバ	0
2	新　保	FP	FP	ミゼロバ	4
2	加　藤	FP	FP	ツォファリコバ	0
21	(0)	7MT	7MT	(1)	6

〔評〕このチームは過去3回全チェコ選手権優勝チーム。しかもこのチームの球歴はチェコで最も古く、40年を数えているという。3分まず久連松が左45度から右上に決めた。日本チームはよく走り、伸び伸びとやっている。3分30秒ミゼロバのロングが決まって1―1。このミゼロバはチェコ・ナショナルチームの候補。身長178センチ、右利き、強肩。日本の男子と変わらない肩の強さ。ミゼロバを徹底的につぶす作戦をとった。

その後日本はきわめて快調。3分50秒に鈴木が中央突破、4分30秒笠原が左45度、5分久連松が右45度から連続ゲットして主導権を握る。日本は少しも攻撃の手をゆるめず、7分と8分40秒に早川が連続して中央からロングを決める。こんどは笠原が9分40秒にチェコゴールになだれ込んで完全に日本のペース。前半12―3。

後半メンバーをそっくり変えて新保、加藤、永井を出した。後半は笠原、鈴木が大活躍した。選手たちの表情も明るい。

あす（10月31日）は午前7時30分出発、トレンチンで午前10時30分から、フロホベッツで午後3時からゲームがある。なかなかいそがしい。

左端は一昨年来日したステラのアントロアニーさん（パリで）

▽第4戦（10月31日午前10時30分、エドノタ・トレンチン・スタジアム）

日本 16（13―7 / 3―1）8 トレンチン

〔評〕この日は午前7時30分起床、8時30分ウェルスケヘエディ

得	(日本)		(トレンチン)	得
0	古谷	GK	クルチョバ	0
0	川崎	GK		
3	宇井	FP	ガルビーチコバ	0
2	久連松	FP	フリンダーコバ	1
2	笠原	FP	シンゴフェコバ	0
1	黒川	FP	スラビンスカ	1
2	早川	FP	ネムツォバ	2
3	鈴木	FP	クワスニチコバ	1
0	高山	FP	レハーコバ	2
0	永井	FP	リチョワスカ	0
1	新保	FP	トルゴノバ	0
2	加藤	FP	トマンコバ	0
		FP	シタストナー	0
16	(0)	7MT	(0)	8

シチェをバスで出発、トレンチンまで約100キロ、10時トレンチン・スタジアム到着。10時30分スローオフという強行軍。コートは屋外。このチームにはウェルスケヘエディシチェで試合した選手が2人いた。観衆は約1000人。

1時間半もバスに揺られ、練習もじゅうぶんやっていないので、前半の約15分間は全く調子がでない。15分をすぎてからやっと動きがよくなってきた。前半は10分30秒鈴木、12分20秒新保、16分30秒宇井の計3点だけ。相手が1点しかあげないので命拾いした。

そこでハーフタイムの10分間、観衆の前で練習を始めた。これでやっといつもの調子を取り戻し、後半は13点をあげて大勝した。午後1時30分バスでフロホベッツに向かう。距離は約80キロ。

▽**第5戦**（10月30日午後3時30分、フロホベッツ）

日本 16（8－4, 8－5）9 **フロホベッツ選抜**

得	(日本)		(フロホベッツ)	得
0	古谷	GK	ブレショバ	0
0	川崎	GK		
1	宇井	FP	チトロバ・エレナ	1
2	久連松	FP	チトロバ・ニナ	0
4	笠原	FP	メドベドスカ	2
1	黒川	FP	エフラロバ	0
4	早川	FP	バルズオフスカヤ	2
3	鈴木	FP	レフトリソバ	1
0	高山	FP	クライチョバ	0
0	永井	FP	ピナーコバ	1
1	新保	FP	ウェロブツォバ	2
0	加藤	FP	ブラーブロバ	0
		FP	ブルジコバ	0
16	(0)	7MT	(1)	9

▽反則退場　久連松、クライチョバ

〔評〕　バスが遅れて会場に着いたのは試合開始20分前。レフェリーは私が知っているバルドフスキーというチェコの国際審判員。ひどいジャッジだ。それはさておき、観衆は2，000人。ゴールポストの後ろも横も人、人、人でいっぱい。そのなかで地元の協会長の奥さんがただ一人、日本チームを応援してくれた。

ドルトムントのウェスト・ハーレン・ホールの前で（西ドイツ）

前半からろうじて8－4と4点差をつけたが、フロホベッツのGKはすばらしかった。途中でシュートを下へ切り替え、これが成功した。後半は鈴木、笠原、早川、久連松の好プレーで圧勝した。とくに笠原は、チェコへきてからすばらしくよくなった。プレーが忠実である。

▽**第6戦**（11月1日午後3時、ルジアノク・スタジアム）

日本 16（10－3, 6－4）7 **ロコモチバ・ルジアノク**

得	(日本)		(ルジアノク)	得
0	古谷	GK	グレグショバ	0
0	川崎	GK		
1	宇井	FP	E・シテファンコバ	0
1	久連松	FP	G・シテファンコバ	2
1	笠原	FP	E・ラウコバ	2
4	黒川	FP	H・ラウコバ	0
5	早川	FP	H・シテファンコバ	0
1	鈴木	FP	ブラコバ	0
2	高山	FP	アーベロバ	0
1	永井	FP	Y・ベネオバ	0
0	加藤	FP	A・ベネオバ	0
		FP	シェフテコバ	3
16	(1)	7MT	(0)	7

なお午前中は地元ニトラ・ジュニアチーム（16歳以下）と練習マッチを行なった。スコアは9－7で日本が勝った。

▽**第7戦**（11月2日午後6時、ニトラ農大体育館）

日本 14（5－4, 9－2）6 **ニトラ**

得	(日本)		(ニトラ)	得
0	古谷	GK	クルツォバ	0
0	川崎	GK	シビハロバ	0
2	宇井	FP	ブラトコバ	2
3	久連松	FP	ベルゴバ	1
0	笠原	FP	フルショブスカ	0
0	黒川	FP	シテファノビチョバ	0
1	早川	FP	ラウコバ	0
6	鈴木	FP	ビシェノバ	3
0	高山	FP	シタルコバ	0
1	永井	FP	スロバコバ	0
0	新保	FP	トススコバ	0
1	加藤	FP		
14	(1)	7MT	(2)	6

▽**第8戦**（11月4日午後7時30分、ウスチナドラベム体育館）

日本 33（16－3, 17－1）4 **スパルタク・アルマトルカ**

得	(日本)		(アルマトルカ)	得
0	古谷	GK	クリロバ	0
0	川崎	GK		
6	宇井	FP	バシトバ	1
6	久連松	FP	ドレイシ	0
5	笠原	FP	フレッカー	0
3	黒川	FP	アイズルトバ	0
5	早川	FP	ブルナソバ	0
4	鈴木	FP	マテロバ	0
0	高山	FP	チェルマコバ	0
1	永井	FP	フリツォバ	3
0	新保	FP	パピールニコバ	0
3	加藤	FP	カルビーシコバ	0
33	(2)	7MT	(3)	4

▽反則退場　バシトバ

日本、世界第3位の西ドイツを破る

日本対西ドイツ（世界選手権第3位）の国際試合（公式戦）は11月14日午後6時20分からブッペタル・ホールで行なわれ、日本は

一方的に西ドイツを破った。

日本12（6―4、6―4）8西ドイツ

▽レフェリー　デンマーク

〔評〕4分30秒まで西ドイツはホフマンが2点を入れて2―0とリード。日本は6分20秒鈴木、6分50秒笠原のゲットでたちまち2―2。7分30秒キュールが得点して2―3となったが、10分久連松11分30秒笠原の連続ゲットで4―3と逆転に成功。このあとは日本のペースとなり、前半6―4でリード。後半10分から11分30秒までのわずか1分30秒間に黒川2点、早川1点、鈴木が1点の計4点をあげて西ドイツを振り切った。

得	（日本）		（西ドイツ）	得
0	古谷	GK	グレヤーケ	0
0	川崎	GK		
1	宇井	FP	ホイアー	1
1	久連松	FP	ホフマン	2
2	笠原	FP	メーザー	1
2	黒川	FP	キュール	1
1	早川	FP	ミルター	2
3	鈴木	FP	ミュラー	0
0	加藤	FP	ヘルヒエンバッハ	1
2	永井	FP	デーバルト	0
0	新保	FP	ヤコブ	0
		FP	レッヒ	0
12	（1）	7MT	（0）	8

▽11月16日（午後9時、ブレーメン）

日本14（9―1、5―3）4アウスバールデス、ブレース連合チーム

得	（日本）		（選抜）	得
0	古谷	GK	フォーゲス	0
0	川崎	GK	クルス	0
1	宇井	FP	ハウケ	1
1	久連松	FP	シェヌン	1
4	笠原	FP	ランペ	0
2	黒川	FP	ブルーガ	1
4	早川	FP	ローデンベルグ	0
1	鈴木	FP	シェニク	0
1	加藤	FP	フォイクス	0
0	永井	FP	ドーデン	0
0	新保	FP	クライバ	0
		FP	エーテル	1
14	（1）	7MT	（0）	4

▽11月18日（午後7時、ハンブルグ）

日本9（6―4、3―5）9ハンブルグ選抜　引き分け

得	（日本）		（ハンブルグ）	得
0	古谷	GK	ホイアー	0
0	川崎	GK		
2	宇井	FP	シュラー	1
0	久連松	FP	ホフマン	1
1	笠原	FP	マーヤー	1
1	黒川	FP	モーラー	0
1	早川	FP	ミルター	2
3	鈴木	FP	ロイター	2
0	加藤	FP	ムント	0
1	永井	FP	タンク	0
0	新保	FP	ヘルヒエンバッハ	2
		FP	デーバルト	0
9	（0）	7MT	（1）	9

〔なお11月20日以後の試合記録は前号（29号）7、8頁に掲載〕

（写真説明）ハノーバー市の目抜き通りを散歩する選手たち。↓

日本高校、男女とも全勝

攻守に未だしの沖縄球界

第2回日琉親善

日本高校選抜男女ハンドボールチーム（村山寛団長（岡山倉敷青陵高校長））は、沖縄高体連、沖縄ハンドボール協会の招きで昨年12月25日から1月3日まで沖縄に遠征、地元チームと各4試合を行ない、男女とも全勝した。日本の高校チームが沖縄に遠征したのは昨年春次いで2回目。

▽男子第1戦（12月29日・那覇高）

日本32（15―2、17―1）3那覇高

▽同第2戦（12月31日・琉大）

日本42（19―6、23―7）13全沖縄

▽同第3戦（1月2日・那覇高）

日本35（16―10、19―4）14興南高

▽同第4戦（同）

日本47（27―4、20―2）6沖縄工

得	【日本】		【興南】	得
0	南（佐野工）	GK	上原	0
0	入沢（清水商）	GK		
1	白川（有斗）	FP	菅間	2
7	池田（仙台一）	FP	小渡	0
10	関（氷見）	FP	田場	7
6	雨宮（塩山高）	FP	島袋	0
7	金子（浦和市）	FP	上原清	1
4	堤本（和歌商）	FP	松田	3
0	有本（名城付）	FP	伊原	1
0	鈴木（中京商）	FP	友寄	0
0	塩崎（新居工）	FP	高峯	0
0	井上（明石）	FP	福原	0
35	（0）	7MT	（1）	14

小袋是郎男子監督の話　日本チームは寄せ集めだったが、個人技を生かし、第3戦、第4戦ではコンビネーションもよくとれてまずまずのできだった。沖縄の各チームも力いっぱいの試合ぶりをみせたが、基礎練習（基本技）ができていない。沖縄のハンドボールを伸ばすためにはよい指導者が必要だ。

▽女子第1戦＝日時・場所はいずれも男子に同じ

日本44（21―2、23―5）7那覇高

▽同第2戦

日本25（6―1、19―5）6全沖縄

▽同第3戦

日本50（27―0、23―1）1糸満高

全日本高校選抜の50得点は7人制の女子チームによる国内最多得点

得	【日本】		【糸満】	得
0	中下（山陽女）	GK	末吉	0
0	小川（栃木女）	GK	高安	0
4	定塚（高岡女）	FP	古波津	1
5	小島（名女商）	FP	慶留間	0
2	山口み（笠間）	FP	上原	0
10	山口レ（明善）	FP	神谷	0
4	垂水（菊池農）	FP	山里	0
6	小林（城北）	FP	知念	0
6	黒木（新居西）	FP	稲峯	0
6	細川（栃木女）	FP		
3	中司（梅花）	FP		
1	沢田（室蘭商）	FP		
50	（0）	7MT	（0）	1

【交代】日本FP熊谷（盛岡二）得点1、古川（豊中）得点1、浅井（山陽女）得点1

点記録である。これまでの記録は愛知紡（愛知）の38点（昭和39年12月・愛知県総合室内・対愛知商）。なお男子最多得点は早大の66点（昭和40年6月）。

▽同第4戦

日本 37（21－0 16－4）4 知念

なお、男女とも第2戦（琉球大体育館）以外はいずれも屋外。最終日は30日に予定された試合が雨となったため、ダブルヘッダーに変更。

島田新太郎女子監督の話 沖縄の選手はよいバネを持ち、素質はあるのだが、ハンドボールへの知識がたりない。これはバスケットボールの選手を兼ねている者が多いからだろう。やはり、専門の選手が生まれるべきで、今回のわれわれの遠征が役に立てば幸いだ。

日本チームは3年生が多く、実戦から遠ざかっていたため、会心のできとはいえない。

沖縄遠征の印象

全日本高校選抜チーム　鈴木博隆（愛知中京商3年）

『おからだのベルトをお締めください』――スチュワーデスの声が僕らを乗せた機内に流れた。美しい海と緑に包まれた沖縄の山々はもう真下。全日本高校選抜ハンドボールチームは、国外遠征の夢をふくませた元気に沖縄へ着いた。ロビーでの沖縄高体連や沖縄ハンドボール協会の人々による歓迎会があり、責任の重大さを感じた。

翌日（12月27日）僕らは沖縄南部、中部を見学した。一面のサトウキビ畑が僕らを驚かし〝ひめゆりの塔〟と〝健児の塔〟が僕らを悲痛な思いに誘い込んだ。いまの僕らと同じ年ごろの青年や乙女が、絶望の淵に立たされたあげく、悲惨な最後をとげた当時を想像すると、胸をしめつけられるようで立ち去りがたかった。帰途に見たコザ市の印象は〝アメリカの沖縄〟のひとことに尽さる。沖縄は悲劇の島だ。

堅くなった第1戦

沖縄での第1戦は12月29日男女とも那覇高校と同校のグラウンドで行なった。観衆は百人を少し越える程度だったが、緒戦とあって全員堅くなり、しかも開会式の緊張も手伝って開始10分間はボールが手につかず、パスも通らなかった。みんなの心のうちに、きのう見た〝悲劇の史蹟〟の感慨がカゲを残していたのかもしれない。

第2戦（12月31日）の全沖縄との試合は全員のびのび戦い、早いパスワークで得点を重ねた。男子の全沖縄には琉球大の選手も加わっていたが、威圧感はあまりない。翌日は元旦だった。家を離れ、異郷で迎える正月。よい思い出になることだろう。北部へ見学に出たが疲れた者が多く、途中で宿舎に引き返す。

手強い興南高

1月2日は最後の試合で、しかもダブル・ヘッダー。前2試合よりも観客が多く（約三百五十人）僕らもハッスルした。第1試合の相手（男）は興南。昨年の全国高校選手権に沖縄代表として来日、3回戦まで進んだチームである。やはりいちばん手ごわい。僕らは14点を取られた。

第2試合の沖縄工はドリブルやパスがバスケットボール式で、やりにくかった。攻撃力は全日本がはるかに多彩で大勝。

女子も糸満高（第1試合）を相手に50点をあげる好調ぶりで、男女とも全勝の成績をあげた。

研究熱心な沖縄球界

4試合だけで沖縄の高校ハンドボール界のすべてを知ることはできないが、ハンドボールを本格的に始めて日が浅いだけに、どのチームもまだハンドボールそのものがよくわかっていない感じだった。僕らの今回の遠征が少しでも発展へお役に立てばと、一生懸命プレーしてきたつもりだ。協会の人たちや選手たちは実に研究熱心である。この真剣さは、これからの沖縄のハンドボール界に必ず実ると思う。

× × × ×

INTERNATIONALE · HANDBALL · FEDERATION　IHF

故式場会長の思い出

ディジョンでの思い出

小田善一
（東京タイムズ社長）

妙な縁で、最初にパリを訪れたのは第2次世界大戦の空襲下であった。二度目のパリ行きは1961年の5月。アルジェリアの反乱で、パリは戒厳令下に置かれていた。5月というのにパリの町は重い空気に包まれ、プラタナスの並木も、どうも私の胸に夢を誘わなかった。そんなパリを離れてフランスらしい空気を満喫したいと、パリの南方300キロのディジョン（ジブレーヌ・シャンベルタン郡）を訪れた。ブドウ酒とエスカルゴの産地で有名な街だ。

ペレトウ市助役が案内を買ってくれ、町のすみずみまで見物させてくれ、パリの暗土を離れた私の心は明るくなった。実はこのペレトウさんが案内を買ってくれたきっかけは、式場先生にまつわるものだった。私がディジョンを訪れる半月前、式場先生が日本ハンドボールチームを率いて、この市にやってきて交歓試合を行なった。式場先生のヨーロッパ流に洗練された人柄と、絵画、民芸その他の広い趣味、豊かな見識が評判を呼び、ひっぱりダコの人気だったそうだ。ペレトウさんは、式場先生と同じ新聞社に勤務している私を同じ目で見てくれたわけである。

専門の精神病理学の業績はさておき、たとえば先生のゴッホやロートレック研究は、国際的にも超一流であり、こうした点は式場先生の右に出るものがなかった。「ムッシュウ・シキバ」を知っているフランス人はかなり多い。その式場先生が、今度はスポーツ界でハンドボールを仲立ちして、フランス各地で縦横の活躍したのだから人目にも立ち、人気もわいたのであろう。このディジョンの古い建築の壁画にはおかしな彫刻がたくさんあった。ここのブドウ酒を飲むと、そのあまりのうまさに杯を重ねてしまった。そして、ついに家へ帰るのを忘れて道に眠りこけてしまい、捜しまにきた狼（女房の化身ではないか？）にエリをつかまれて引きづられていく——そんな意味を表わす像だという。いまでは、町の若者が〃その彫刻〃をなでると、好きな女性と結ばれるという信仰ができて、これらの像は手アカで光っていた。式場先生もここであの持ち前の大きな目玉を細めてブドウ酒を賞味したというが、ハンドボール選手がこの彫刻をなでて帰ったかどうか知らない。

式場先生ほど、芸術やスポーツを目ざす若い人たちに理解を示し、めんどうがらずに、骨身を削り、私財をはたいてよくお世話をした人は見たことがない。山下清画伯のことはすでにご存じのことと思うが、私の場合についても「小田君、小田君」とかあいがられた。編集の仕事ばかりでなく、バラ作りまで教えてくださった。私には「忘れられない人」である。

私は昨年11月27日のあの盛大な葬儀で、弔詞を捧げる栄誉を与えられた。その夜、道すがらジブレーのブドウ酒を買い求めて、書斎で先生の写真を前に一人でブドウ酒をなめた。けれども、ついにあのディジョンの街の明るさは私の心によみ返ってこなかった。

× × ×

ハンドボールのよき父親

近藤金博
（東京重機監督　世界選手権出場）

先生の死を東京都選手権大会中の東京体育館で聞いて驚きました。そして大会の出場の選手、役員、関係者全員で黙とうを捧げ、ごめい福を祈りました。医学、文学、スポーツなど各方面にわたって活躍された。特にハンドボールの発展に努力され、日本のハンドボールが世界に進出するようになったものも、先生の努力があったからであると思います。

私にとって先生の生前の最も印象に残ることは、初めて世界選手権大会に参加したときです。先生は団長として、私も選手の一員として参加しました。フランス、西ドイツ、チェコスロバキア、イスラエルに同行しましたが、このとき先生は初遠征のうえ非常に強行な日程でしたが、老齢にもかかわらずものすごいファイトで一行を励ましてくれました。医学者らしく選手の健康に絶えず細心の注意を払い、よき父親のようでありました。そのうえオリンピックの前であったため、各国との関係もたいへんだったようです。またフランスで宮原藤支男選手が負傷したときは、このときほど先生が医学者であることに心強さを感じたことはなかった。

各地を転戦したときも、その地の文化、産業などに博学なのには驚きました。この遠征で初参加にもかかわらずりっぱな成績をあげられたのは、先生の力によるものが大きかった。ここに偉大なる先生の死去を心からくやみ、ごめい福を祈ります。

故式場会長の思い出

球界発展の大恩人

馬場太郎
（日本協会副会長）

はかなきは人の世。痛ましきは別離の心。全く思いもしなかった冷厳な運命が先生の上にふりかかった。こんなに早く先生と永遠のお別れをしようとは、われわれ20万ハンドボール愛好者の考え及ばなかったことであった。昨年11月27日正午から関係20団体の合同葬が東京、青山葬儀所で、武見太郎氏（日本医師会会長）を葬儀委員長として行なわれた。数千人の会葬者はいまさらながら先生の徳を忍ばれるものがあった。人生無情、会者必離の理はすでに知っているところではあるが、われわれは人生朝露の宿命を悟りながら万感胸に迫る感は参列者一同の実感であったろう。人の生は短く、われわれの事業は長い。いまから先生の遺志を継いで協会の盛運を誓いたい気持でいっぱいであった。

先生は大正10年（1921年）新潟医専を卒業。ドイツに留学、帰国後、静岡市脳病院長などを歴任したあと、千葉県市川市に式場病院を開業した。社会的に幅広い活動家として知られ、日本ハンドボール協会会長、日本医家芸術クラブ委員長、日本点学図書館後援会長などをつとめる一方、放浪の画家・山下清を世に出したことはあまりにも有名であった。画伯と本格的なつながりを持ったのは戦後29年以後である。36年には山下清画伯を同伴してヨーロッパ旅行。また日本全国を巡回して各地で山下画伯の個展を開き、その盛名をあげたのは先生の力があってこそである。またバン・ゴッホの生涯と精神病などゴッホに関する著書をはじめ医学、美術、工芸など百九十以上の著作がある。最近は日本盲人カナタイプ協会長として盲人タイピストの養成につとめるなど全く精力的に各方面に活躍された。なお多年の功績を認められ正五位勲三等を追贈された。

先生と日本ハンドボール協会とのつながりは戦後の21年3月31日協会復活とともに日本ハンドボール協会三代目の会長に就任されたときに始まった。初代会長は国際送球連盟の日本代表権を日本陸上競技連盟から日本送球協会に円満譲渡された昭和13年2月2日に、当時陸連会長の平沼亮三氏、2代目会長はドイツ大使をつとめられた永井松三氏であったが、前述のとおり戦後混とんたる世相の昭和21年に会長を引けられ、いらい年間その敏腕を振るわれ、今日の隆盛をきたのは先生の力によるものである。その間昭和27年（1952年）ヘルシンキ・オリンピック大会のとき、当時の理事長外山准二氏（現東京都協会理事長）を滞同してハンドボールの公開競技を見学された。将来日本でオリンピック開催のさいは、ぜひ正式種目にと決意される動機となったことは、いかに故人がハンドボールに情熱を傾けられたかの一端をうかがい知れることができる。

また28年9月、国際ハンドボール連盟総会に出席、欧州各国の会長を歴訪され、ハンドボールのオリンピック種目復活を協議されるなど、その行動半径の広かったことはわれわれの感謝の言葉を筆舌では表わせない。昭和36月（1961年）2月には第4回男子7人制世界ハンドボール選手権大会には団長として渡欧、日本ハンドボールの真価を世界の識者に問うチャンスを作られた。数度の外国遠征や欧州チームの来日の動機を作られるなど、今日の日本ハンドボールの繁栄は全く先生の偉大な識見の遺産である。球界発展の大恩人である。われわれの瞼には、先生の温顔は永遠に消えることなく残るであろう。

会葬お礼

拝啓　初冬の候ご清祥のことと存じます。

このたび式場隆三郎の死去に際しましては一方ならぬご懇情を賜わり、ありがたく厚く御礼申上げます。去る十一月二十七日、故人生前の関係団体が中心となりまして、青山斎場における告別式をとりおこないましたが、不慣れのため、また故人が思いもかけぬ多方面に活躍しておりましたので、多々失礼があったことと存じます。なにとぞご海容賜わりますとともに、今後も関係各団体に故人在命中と同様のご高庇をいただきますようお願い申上げます。　敬具

昭和四十年十二月一日

式場隆三郎葬儀委員会

市川ライオンズクラブ
歌と観照社
株式会社大室ヘルスホテル
グロリア・ソサエティ
劇団民芸
金剛出版株式会社
三一会
式場病院
慈彩会
ダゲール会
中央文化協会
帝国華道院
東京社会保険協会
東京タイムズ社
東京民芸協会
東京ライオンズクラブ
東蜂出版株式会社
日本医家芸術クラブ
日本ヴァンゴッホ友の会

故式場会長の思い出

先生と20年の交際

外山準二
（元日本協会理事長
現東京都協会理事長）

式場先生がなくなられた。温和な顔で、白髪をかき上げながら話をしている先生の面影が目に浮んでくる。先生とは20年間のご交際である。昭和21年夏、日比谷の東京タイムズ社（現共同通信社地下）に、前会長故永井松三氏の後任会長としてお願いにあがったのが初対面だった。開襟シャツで気軽に会ってくださっていらい、20年にならうとしている。公私とともにずいぶんお世話をおかけしてしまった。

終戦直後のハンドボールは、新しいスポーツとしての弱点と復員スタッフの集合が遅れ、ずいぶん苦労したものだ。そんなときに東京タイムズ社にすべてを賭け、式場社長あげての応援をしていただいた。当時大会ごとに寄贈していただいたカップが数年前に先生との話題に上り『当時はこれでもよかったが、十数年たつとお粗末になるね。そろそろ取り替えなくては…』といわれたこともあった。いまから思えば、むしろそのお粗末の方が、僕にとっては数多くの思い出を持ったものになってしまった。

先生は終戦後の地方における大会にはよく出かけてくださった。国体はもちろん全日本選手権その他日本協会主催の大会が、地方で開かれるときは必ず出席してくださった。特に高松宮殿下のご出席も先生のご尽力で実現し、今日の殿下とハンドボールの関係のもとになったと思っている。終戦直後の世相は特にひどく、先生は医者の立ち場から早くから純潔教育―性教育に着眼され、雑誌にも盛んに執筆されていたのでその方面でたいへん有名であった。そのため地方の大会に先生のお伴をして行くと、地元県の教育委員会から滞在を1日延ばして講演会を頼まれることが多かった。先生と僕と2人残ってさらに一泊し、翌日は公会堂とか学校の講堂、体育館などに設けられた会場に出かけ、1時間半ばかり講演されたものだ。僕も度重なるうちに先生の講演要旨を覚え、終わりころはよく会場を逃げ出して町を見物したものだ。当時の教育委員会はたいした予算もないので、ハンドボール大会に出席された先生を利用したものだ。そんなとき、よくお礼のことについて相談を受け、「この汽車が動き出してから先生にお渡しください」などといわれ、そのとおりに車中でお渡ししたとき、苦笑された先生の顔が思い出される。

1952年6月、スイスで開かれた世界選手権大会（11人制）を見学し、9月日本のIHF復帰の決議がなされる総会に出席するよう招待状が届いたので、結局僕も先生のお伴で初めてヨーロッパに出発した。そんなとき、先生は親身になって私をお世話くださった。いまなお感謝の気持でいっぱいだ。わざわざ東京タイムズ社特派員の肩書きをいただき、スイスの大会が終わってから7月からヘルシンキ・オリンピック大会に参加、本部補助役員としてヘルンシンキ大会で得がたい経験をした。

また私の父が病床にあり、日本橋の家で寝込んでいたときも市川の病院から東京タイムズ社への道順だったといって2、3度診察していただいた。この原稿を頼まれて筆をとって書き出したが、あとからあとから思い出がとど出してくる。いずれ機会に改めて筆をとってみたい。先生のごめい福を祈ります。

日本精神病院協会
日本点字図書館後援会
日本ハンドボール協会
日本盲人カナタイプ協会
パリ会
藤蔭静樹後援会
フランス文化の会
北欧文化協会
守田勘弥後援会
優秀映画観賞会
笑おう会
（五十音順）

故式場隆三郎死去に際して皆々様より頂いたご厚情を、心よりありがたいことと思っております。生前はもとより、死後もなおこれほど心をおかけくださる方々をもった故人は、まことにしあわせ者でございました。ここに数々のお心づくしを頂いた皆々様や、お世話くださった関係諸団体の方々にお礼を申しあげるとともに、死ぬまで前向きの姿を持ちつづけた故人の心を心としたい私ども残された者たちにも、故人同様のご被護をたまわりますよう、伏してお願い申しあげます。なお皆々様より頂いたお心づくしのうちより、ライオンズクラブを通じて社会福祉法人日本点字図書館に対して、ささやかな寄金をさせて頂きました何卒ご了承ください

昭和四十年十二月一日

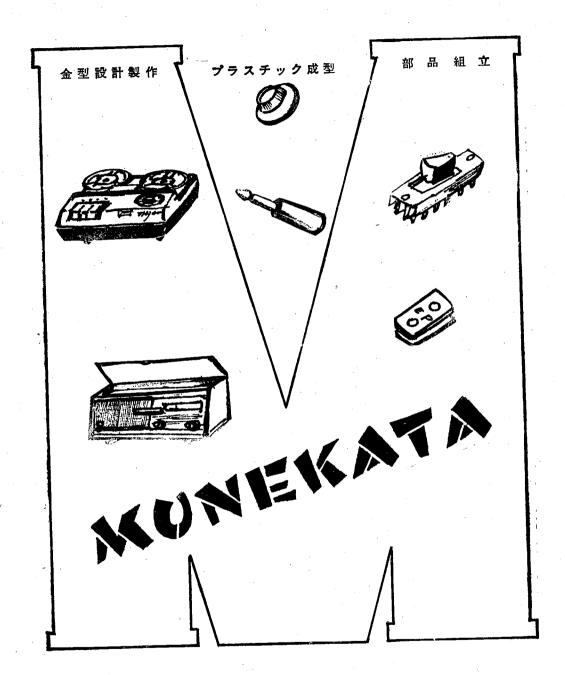
千葉県市川市国府台三ノ二四一八

嗣子　式場聴
妻　式場ミス
遺族一同

品質と技術を誇る

海外ジャーナル

王者ルーマニアの秘訣
実を結んだハンドボール学校
コーチ志願者の特別コースも

ルーマニア五輪時報から

現在世界で採用されているハンドボールには11人制、7人制の2つがある。第2次大戦後、ハンドボールは欧州諸国で盛んに行なわれるようになり、この10年間はアフリカ、アジア、アメリカでもさかんになった。そうしてオーストラリアを除く各大陸の多くの国が参加する世界選手権とか、ハンドボールを始めた国に新加盟を認めた国際ハンドボール連盟(IHF)理事会とかを経てハンドボールはいよいよ「世界的規模のスポーツ」としての確固たる地位を固めた。IHF加盟36カ国でこの競技が行なわれている。

ルーマニアの女子の試合

この競技の歴史をかえりみると、11人制はドイツが大きく貢献をしている。というのは、ドイツの採用した戦術、技術、トレーニングなどが基本となり、各国がこの方法を学んで競技が発展してきたからだ。また7人制については、北欧とくにスウェーデンが室内とか、小さな競技場でもプレーできるような技術、戦術を考案した。このためスウェーデンは室内ハンドボールではいまだに王者の地位を占めている。

ところで11人制のドイツ、7人制のスウェーデンという伝統にたいして、ハンドボールを手がけてからまだあまり年月を経ていないルーマニアがこのところすばらしい成績を上げている。ルーマニアといえば、つい最近まで西ドイツ、スウェーデンの弟子だったのだが、この8年間にルーマニアの男女ハンドボールチームは世界最強のチームにノシ上がった。世界タイトル獲得は5回、欧州選手権優勝数回などの実績は、国際スポーツ界で「ルーマニア・ハンドボールの奇跡」とまでいわれている。ルーマニアが初めて11人制(女子)で優勝した1956年いらい、ルーマニアチームはきびしい練習で世界の注目を浴びた。それでも多くの専門家は依然として草分けの西ドイツ、スウェーデン、さらにはチェコなどに関心を向けていた。しかしこうした見方も1962年の女子世界選手権、1964年の男子世界選手権でルーマニアがタイトルを取るに及んで改まってきた。そうして現在のハンドボールは〝ルーマニアハンドボール学校〟の権威が確立したようである。

各国の専門家たちは、ルーマニアが比較的短時日のうちにこのような実力をつけた秘密を探ろうとしている。この質問にたいする回答は、ルーマニアが解放されたのちに行なわれた社会、政治、経済、文化的変革と関連して考えた場合は、容易に見出すことができる。労働者階級の美徳となったスポーツはルーマニア国内でいよいよ盛んになっている。ユース・ユニティ・カップ労働者青年カップ、スパルタキアードなどの大競技会で、さまざまの競技が行なわれ、極めて多くの青年が参加している。もちろんハンドボールもこうした大会で行なわれる。

これだけではなく全国的規模のハンドボール大会も行なわれ、こうした競技会によって優秀選手が育成され、選抜チームが結成されている。また友好的な国際試合で経験が積まれた。この結果、価値あるハンドボール選手が生れていく。さらに技術コーチの養成のためにトレーナー、コーチ志願者を訓練する特別コースも作られている。ルーマニアチームの水準を保

地方だより

大阪イーグルス3連勝

▼第5回西日本一般男子選手権（40年11月20－21日、今治西高）

▽1回戦

大阪イーグルス 26－16 大分教員ク

菊松会（広島） 28－17 愛媛教員

熊本ク（熊本） 27－16 香川ク（香川）

住友化学（愛媛） 19－11 尼崎ク（兵庫）

▽準決勝

大阪イーグルス 28（14－8、14－12）20 菊松会

熊本ク 23（11－8、12－10）18 住友化学

▽決勝

大阪イーグルス 18（11－9、7－8）17 熊本ク

北信越高校開く

▼第1回北信越高校選手権（40年11月27・28日富山市体育館）

▽男子1回戦

上田（長野） 16－15 金沢商（石川）

藤島（福井） 15－13 柏崎工（新潟）

▽同準決勝

氷見（富山） 21（8－4、13－6）10 上田

藤島 16（11－6、5－8）14 小杉（富山）

▽同決勝

氷見 15（10－6、5－2）8 藤島

▽高校女子1回戦

上田城南（長野） 不戦勝 常盤（新潟）

小松市女（石川） 7－6 有磯（富山）

▽同準決勝

高岡女（富山） 19（7－3、12－2）5 上田城南

小松市女 12（7－2、5－3）5 高志（福井）

▽同決勝

高岡女 7（4－2、3－4）6 小松市女

新治中優勝

▼第15回茨城県総合選手権（40年11月27、28日石岡一高）

▽中学男子1回戦

麻生一中A 15－10 千代田中A

新治中 23－11 赤塚中

波崎二中 30－3 麻生一中B

千代田中B 30－4 麻生二中

▽同準決勝

新治中 22－17 麻生一中A

千代田中B 24－23 波崎二中

同決勝

新治中 10（5－4、5－4）8 千代田中B

▽中学女子1回戦

桜丘中 7－4 波崎二中

麻生一中 9－4 波崎一中

▽同決勝

麻生一中 6（4－0、2－2）2 桜丘中

▽男子準決勝

茨城大 18－5 原研A

麻生高 21－8 石岡一高A

▽同決勝

茨城大 14（6－4、8－5）9 麻生高

▽女子準決勝

水海道二高 9－4 石岡二高B

麻生高 10－7 石岡二高A

▽同決勝

麻生高 12（5－4、7－2）6 水海道二高

▼第4回北信越選手権（40年11月28日、富山市体育館）

▽1回戦

氷見ク（富山） 26（12－2、14－8）10 富山大（富山）

▽決勝

氷見ク 30（14－11、16－6）17 県工ク（石川）

▼岡山県一般男子、高校選手権

田村紡にスポーツ賞

読売新聞社制定の第15回日本スポーツ賞ハンドボール部門賞は、日本協会の推薦によって田村紡績女子ハンドボールチーム（三重）に決まった。なお、同賞の年次受賞者は次の通りであり。

▽第1回（昭26）皆川茂夫氏（日体大OB・日体大ク＝当時）▽第2回新山末子氏（岡山倉敷青陵高OG）▽第3回桜台高▽第4回寝屋川高女子▽第5回日本体育大▽第6回愛知県ハンドボール協会▽第7回桜台高＝2回目▽第8回愛知紡績▽第9回芝浦工業大学▽第10回中京商業高▽第11回大崎電気男子▽第12回大洋デパート▽第13回徳山高男女両チーム▽第14回全立教大（第1回、第2回は個人表彰）

愛知実業団　二部制に

▼愛知実業団連盟は、1月の冬季リーグ戦から二部制（一部5、二部4）を採用することになった。

実業団大会で二部を設けたのは同連盟が初めて。

九州学連、正式に発足

かねてから結成の準備を進めていた九州学生ハンドボール連盟は、9月末に規約（9章37条）の作成を終わり、正式に発足した。在九州各校の連絡機関としてこれまでにも同名の連盟があり、一昨年から毎春「全九州学生選手権」を開いていたが組織としては確立されていなかった。

なお加盟校は、西南学院大、九州大、熊本商大、鹿児島大の4校で、近い将来に長崎大、宮崎大、大分大、琉球大などの参加が予定されている。

（40年11月13日―28日、操山高校、岡山大）

▽高校女子準決勝
井　原　10―3　青　陵
西大寺　8―4　津山商

▽同決勝
井　原　15（8―4、7―2）6　西大寺

▽高校男子準決勝
倉敷商　12―6　天　城
児　島　14―13　倉敷工

▽同決勝
倉敷商　25（13―3、12―4）7　児　島

▽一般男子リーグ
岡山教員　27―16　岡山大
〃
岡山大　22―16　O天城B高
岡山教員　19―7　O天城B高
〃

▲第16回三重県総合選手権（40年11月21日、28日、津高）

▽女子準々決勝
田村紡　32―0　暁　高
松阪女ク　17―2　津　高
津女高　18―5　上野商工
亀山高　14―4　四日市商高

▽同準決勝
田村紡　36―0　松阪女ク
亀山高　9―6　津女高

▽三位決定戦
松阪女ク　8―7　津女高

▽同決勝
田村紡　36（18―1、18―0）1　亀山高

▽男子準々決勝
本田技研　16―15　四日市工高2年
津工高　22―11　津　高
四日市工高3年　35―9　県立三重大
鵜森ク　15―12　三重教員

▽同準決勝
本田技研　28―12　津工高
四日市工高3年　18―16　鵜森ク

▽同3位決定戦
鵜森ク　37―16　津工高

▽同決勝
四日市工高3年　27（16―9、11―13）22　本田技研

岡部君を激励しよう

福岡県立福岡工業高校ラグビー部の岡部文明君は、昨年10月岐阜県で開かれた第20回国体ラグビー競技に参加、試合前日の練習中にケイ骨脱臼の重傷を負いました。12月3日に国体関係者、自衛隊関係者の協力で福岡の九大病院に入院加療中です。競技種目は違っても同じスポーツマンです。全国のハンドボール選手のみなさんで、岡部君を激励しましょう。

なお「岡部文明君お見舞い発起人」から当編集部あてに趣意書が届きましたので掲載しました。

（原文のまま）

趣　意　書

謹啓寒さ厳しき折貴台には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。さてすでに御承知のことと存じますが、去る十月岐阜県で開催されました国民体育大会に高校ラグビー選手として出場しました県立福岡工業高等学校二年生、岡部文明君は大会前日の練習中に頸骨脱臼の重傷を負い岐阜大学附属病院に入院、一時は生死を危ぶまれる病状でありましたが病院の適切な処置により危機を脱し、以後本人の気力、御家族の手厚い看護はもとより、岐阜県民の方々の心からの御激励と善意により、幾分体調も回復し、12月3日自衛隊はじめ関係者の温い御尽力によりまして帰福、九大病院にて引続き加療中であります。

同君の病状は生命の危機は脱しましたものの極めて重症でありまして、胸部から下が依然として麻痺状態にあり、現在までの病状の経過から推して、今後、長年月にわたり加療が必要で、場合によっては生涯麻痺状態は続き、人手を借りた生活を覚悟せねばならないようであります。

しかし本人はスポーツで鍛えた強い意志をもって再起への希望を捨てず全快への闘病生活を続けております。本人はもとより御家族の精神的物質的負担は、はかり知れないものがあり、全くお気の毒であります。ここに関係者集り皆さんの善意を結集して、岡部君へ温い激励の手を差しのべ、全快を祈りたいと思います。

つきましては趣旨に御賛同の上、何分の御協力を賜わりますよう切にお願い申し上げる次第であります。

昭和四十年十二月

岡部文明君お見舞発起人

福岡県国体選手団長
福岡県体育協会長　安　川　寛

福岡県ラグビーフットボール協会長　葛　西　泰　二　郎

福岡県高等学校長会長　重　藤　市　之　亟

福岡県私立中学高等学校協議会長　水　月　文　英

福岡県高等学校体育連盟会長　敷　島　太　郎

事務所　福岡市西中洲六街区二九号
福岡県教育庁体育課内　吉　田　三　二

編集後記

○…全日本選抜選手権で芝浦工大が初優勝した。オメデトウ。アマチュアスポーツは、やはり学生が強くないとおもしろくない。ハンドボールといえば、すぐ芝浦工大とか、大崎電気の名前が出るが、これは決して喜ぶべきことでない。いつか芝浦工大の三浦教授が言っていたように、早・慶・明が強くないとダメ。早・慶・明が芝浦工大、大崎電気、全立大にたち打ちできるようになると、ハンドボールはまだまだ人気が出てくる。そう思いませんか。

○…東京都協会の調べによると、全日本選抜選手権の有料入場者は1日平均700人とか。6日でざっと4，200人。「これが無料だったら、おそらくこの半分ぐらいだろう。次の大会も有料でいく」となかなかの強気である。ファンが1人で多ければプレーヤーも張り切る。

○…それにしても東京の新聞はこの大会の記録を大きく扱ってくれた。ハンドボール史上初めてのことだろう。なかでも読売新聞は大きく扱ってくれた。毎日新聞も朝日新聞も、そして東京新聞も…。スポーツ紙も同様だった。うれしいことである。オフ・シーズンだからよかったのだろう。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第三十号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十一年一月二十日印刷 昭和四十一年一月二十五日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話 代表(467)三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価 百三十円 (〒二十円)